

花も見られる様になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

生垣には枝も重そうな満開の椿に、

並木には桜も見られます。

初夏を思わせる陽春の風に、

もう小さな木の芽が出ています。

今日はいい天気。

今夜は、夏の星座も顔を見せ、

円や長細い銀河が満開で、球状星団も見えてきそうです。

それでは今月も行ってみましょう。

2025年 4月

【主な現象】

4月 5日	上弦（半月）（11時15分）
4月13日	満月（ 9時22分）
4月14日	月が最遠（ 7時48分）
4月21日	下弦（半月）（10時36分）
4月22日	水星が西方最大離角（ 3時49分） 4月こと座流星群が極大（22時）
4月27日	金星が最大光度（19時16分）
4月28日	新月（ 4時31分） 月が最近（ 1時18分）

【解説】

- ★4月こと座流星群（こと座 κ 流星群）は、4月16日ごろから4月25日ごろまで活動します。極大は4月22日22時で、極大時の出現数は1時間あたり10個程度です。ピークは鋭く、やや速く明るくて痕を残すことが多いのが特徴です。極大時の月齢は24.1で、月の条件は良いです。
- ★4月下旬ごろ明け方東の低い空に、水星、金星、土星が集合しています。4月25日には、そこに細い月も加わります。
- ★夕方西の空の黄道光が見やすくなっています。
春の夕方は黄道が地平線に対して立つので、太陽から黄道に沿って延びる黄道光の高度が高くなって見やすくなります。
黄道光は天の川より淡いので、天の川がはっきり見える様な暗い空のところで、日が暮れて星が出そろったらずぐに、黄道星座を目安にして探してみましょう。
夕方に月が無い4月下旬が良いでしょう。

【観望案内】

★接近

- 4月20日～月末 金星と土星が
明け方東の地平線近く
で接近して見えます。
見ごろは 4時00分ごろでしょう。
- 3月20日～4月10日ごろ ポルックスと火星が
宵に西の空で
接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- △ 4月10日～4月10日ごろ 水星と土星が
明け方東の空で
接近して見えます。
見ごろは 4時30分ごろでしょう。
- 4月02日 木星と細い月（月齢 4.0）が
夕方西の空（22時30分以前）で
接近して見えます。
見ごろは19時00分ごろでしょう。
- 4月03日 ポルックスと火星が
宵に西の空（ 4月04日 2時10分以前）で
接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- 4月05日 ポルックスと火星と月（月齢 7.0）が
夕方西の空（ 4月06日 1時00分以前）で
接近して見えます。
見ごろは19時00分ごろでしょう。
- ◎ 4月08日 レグルスと月（月齢10.0）が
宵に南の高い空（ 4月09日 3時20分以前）で
かなり接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- △ 4月11日 水星と土星が
明け方東の空（ 4時20分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 4時30分ごろでしょう。
- 4月13日 スピカと月（月齢15.0）が
宵に南東の低い空（18時40分以降）で
接近して見えます。
見ごろは21時00分ごろでしょう。
- 4月17日 アンタレスと月（月齢18.2）が
夜半に南東の低い空（21時50分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 0時00分ごろでしょう。
- ◎ 4月25日 水星と金星と土星と細い月（月齢26.3）が
明け方東の地平線近く（ 4時00分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 4時00分ごろでしょう。
- △ 4月26日 水星と細い月（月齢27.3）が
明け方東の地平線近く（ 4時00分以降）で
かなり接近して見えます。
見ごろは 4時00分ごろでしょう。

- 4月29日 金星と土星が
明け方東の地平線近く（ 3時20分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 4時00分ごろでしょう。
- 4月30日 木星と細い月（月齢 2.6）が
夕方西の低い空（21時40分以前）で
接近して見えます。
見ごろは19時00分ごろでしょう。
- 4月20日～月末 プレセペ星団と火星が
宵に西の空で接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。
- ※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいと思います。
○：見ておもしろいと思います。
△：高度が低かったり、薄明の中であつたりで見にくいと思います。
但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等
意外とおもしろい可能性はあります。
◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

★日没

東京での日没は

4月 1日	18時03分
4月 8日	18時09分
4月15日	18時15分
4月22日	18時20分

もう18時でも日が暮れていません。

1日に1分弱のペースで、少しずつ日の暮れるのが遅くなって
日が長くなって行きます。

★今宵の空

日が暮れると（１９時～２０時ごろ）冬の星座は西に傾き、もうずいぶん春の星座が見え始めています。

天頂付近の空　しし座、こじし座、かに座、やまねこ座

南の空

高　うみへび座の頭部、ろくぶんぎ座
中　ポンプ座、らしんばん座
低　ほ座の一部

南西の空

高　こいぬ座、いっかくじゅう座
中　おおいぬ座、とも座の一部

西の空

高　火星、ふたご座、ぎょしゃ座
中　木星、オリオン座、おうし座
低　うさぎ座

北西の空

中　ペルセウス座

北の空

高　おおぐま座
中　きりん座、こぐま座、りゅう座
低　カシオペヤ座、ケフェウス座

北東の空

高　りょうけん座
中　うしかい座、かんむり座

東の空

高　かみのけ座
中　おとめ座

南東の空

中　からす座、うみへび座の胴体
が出ています。

★星のお話

りょうけん座 [獵犬]

設定者：ヘベリウス

Canes Venatici (CVn) 面積：465平方度

《The Hunting Dogs》

りょうけん座を見てみましょう。

プトレマイオスはこの辺りの星をおおぐま座に含めていました。^{☆01)}

17世紀に従来の大星座では分類できない星が出てきたのでヘベリウスが^{☆02)}1678年に^{☆03)}12個の小星座を新設しました。^{☆02)}

新設されたときは、2匹の犬の名前の付いた^{☆02)}「アステリオン（星形）座」と「カラ（主の愛犬）座」^{☆04)}でしたが、後に1つの星座となり、りょうけん座としました。

*星の並び

北斗七星の柄杓の柄の部分から少し南のところに、3等星の α と4等星の β がこじんまり点々と並んでいるのがすぐに分かりますが、その他には目立った星はありません。おおぐま座、うしかい座、かみのけ座に囲まれたところが、りょうけん座です。星座絵では、うしかいに連れられた2匹の獵犬で、おおぐまに向かって吠えかかっている姿です。 α は南側の犬の首輪、 β は南側の犬の目先か鼻あたりになりますが、北側の犬にはほとんどそれらしき星はありません。

星の並びを見ただけでは、2匹の犬の姿は全く分かりません。

小さな星座で3等星以下の星しかありませんが、まわりに明るい星が無く、北斗七星の近くで、 α と β が点々と並んでいるのは印象的でよく目立ちます。

*星の名前

α は**コル・カロリ**「チャールズ王の心臓」^{☆05)}

(ピューリタン革命で国外に追放されていた^{☆06)}イギリスのチャールズ2世が1660年^{☆06)}5月30日^{☆07)}にロンドンに帰り即位したときこの星が異常に明るく輝いた、という話を後に王の侍医チャールズ・スカーボローから聞いたハレーが1725年に命名したけたと言われている^{☆06)})

β は**カーラ**「主人の胸にしたしきもの」^{☆08)}

(犬の名前^{☆06)}「カラ」：ギリシア語でかわいいもの、親愛な物の意味^{☆07)}からきたという)

アステリオン「星のきらめき」^{☆09)}

(2匹の獵犬の名前がカラとアステリオン^{☆08)})

という名前が付いています。

※星座名と星の名前、犬の名前には^{☆07)}、逆になっているなど相互に混乱が見られる^{☆07)}様です。

* 観望

見ごたえのある天体がたくさんあります。

球状星団	M 3	(1 0 c m 望遠鏡) ☆10)
銀河	M 5 1	(1 0 c m ~ 望遠鏡) ☆10)
銀河	M 6 3	(1 0 c m ~ 望遠鏡) ☆10)
銀河	M 9 4	(1 0 c m ~ 望遠鏡) ☆10)
銀河	M 1 0 6	(1 0 c m ~ 望遠鏡) ☆10)
2 重星	α	(5 c m 望遠鏡) ☆11)

* 補足

春の星座の観望には欠かせない見事な球状星団のM 3 と、子持ち銀河のM 5 1 があります。また、M 6 3、M 9 4、M 1 0 6の銀河もあります。これらの銀河は、口径1 0 c m程度の望遠鏡で楕円形の星雲状に見えますが、口径2 0 c m程度でもあまり変わらず、銀河らしく見えるにはさらに大口径で見たいところです。

α のコル・カロリは口径5 c m程度の望遠鏡でもよく見える2 重星です。

* 神話

1 7 世紀にヘベリウスが、おおぐま座の一部を独立させて作った星座で特に神話もありますが、カリストの息子アルカスが、熊の姿に変えられた母を狩ろうとしている様子（おおぐま座、小熊座の話）を表して獵犬を作ったという話もあります。☆12)

☆01) 【アルマゲスト プトレマイオス 藪内清 訳 恒星社厚生閣】

☆02) 【天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社】

☆03) 【星の文化史事典 出雲晶子 白水社】

☆04) 【星座のはなし 野尻抱影 筑摩書房】

☆05) 【星の百科 草下英明 社会思想社】

☆06) 【星の文化史事典 出雲晶子 白水社】

☆07) 【星座の神話 原恵 恒星社厚生閣】

☆08) 【星座手帖 草下英明 社会思想社】

☆09) 【星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣】

☆10) 【ほしぞらの探訪 山田卓 地人書館】

☆11) 【四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社】

☆12) 【星座 沼澤茂美・脇屋奈々代 ナツメ社】

★夜更けの空

夜が更けると（２２時～２３時ごろ）すっかり春の星座です。

夏の星座も少し顔をのぞかせています。

天頂付近の空 かみのけ座

南の空

高 おとめ座、春の大三角

中 コップ座、からす座

低 ケンタウルス座の一部、ポンプ座、ほ座の一部

南西の空

高 しし座

中 ろくぶんぎ座、うみへび座（西～南東まで続く全貌）

低 らしんばん座

西の空

高 こじし座

中 火星、かに座、ふたご座、こいぬ座

低 いっかくじゅう座

北西の空

中 やまねこ座

低 ぎょしゃ座

北の空

高 おおぐま座、こぐま座

中 きりん座、りゅう座、ケフェウス座

低 カシオペヤ座

北東の空

低 こと座、はくちょう座

東の空

高 りょうけん座、うしかい座、かんむり座

中 へび座（頭部）、ヘルクレス座

低 へびつかい座

南東の空

中 てんびん座

低 さそり座の一部、おおかみ座の一部

が出ています。

★惑星

水星は、明け方東の地平線近くに見えます。

4月22日が西方最大離角で、日出時の高度11.4°、日出30分前の高度5.4°です。4月初めから西方最大離角まで、5°程度高くなり西方最大離角以降は、ほとんど変化しません。

4月 1日は、 4時50分に昇ります。

4月 8日は、 4時25分に昇ります。

4月15日は、 4時10分に昇ります。

4月22日は、 4時00分に昇ります。

金星は、明け方東の低い空に見えます。

4月 1日は、 4時24分に昇ります。

4月 8日は、 3時56分に昇ります。

4月15日は、 3時34分に昇ります。

4月22日は、 3時16分に昇ります。

火星は、かに座にいて、夕方南西の空に見えます。

4月 1日は、18時45分に南中し、 2時05分に沈みます。

4月 8日は、18時28分に南中し、 1時46分に沈みます。

4月15日は、18時12分に南中し、 1時27分に沈みます。

4月22日は、17時56分に南中し、 1時08分に沈みます。

木星は、おうし座にいて、夕方西の低い空に見えます。

4月 1日は、23時12分に沈みます。

4月 8日は、22時50分に沈みます。

4月15日は、22時28分に沈みます。

4月22日は、22時06分に沈みます。

土星は、みずがめ座にいて、明け方東の地平線近くに見えます。

4月 1日は、 4時55分に昇ります。

4月 8日は、 4時29分に昇ります。

4月15日は、 4時04分に昇ります。

4月22日は、 3時38分に昇ります。

天王星は、おうし座にいて、夕方西の低い空にいます。

4月 1日は、21時30分に沈みます。

4月 8日は、21時04分に沈みます。

4月15日は、20時38分に沈みます。

4月22日は、20時13分に沈みます。

海王星は、うお座にて、明け方東の地平線近くにあります。

4月 1日は、 5時06分に昇ります。

4月 8日は、 4時39分に昇ります。

4月15日は、 4時12分に昇ります。

4月22日は、 3時45分に昇ります。

(出没の時刻は東京での目安です)

【スター紹介】

★M94★NGC4736

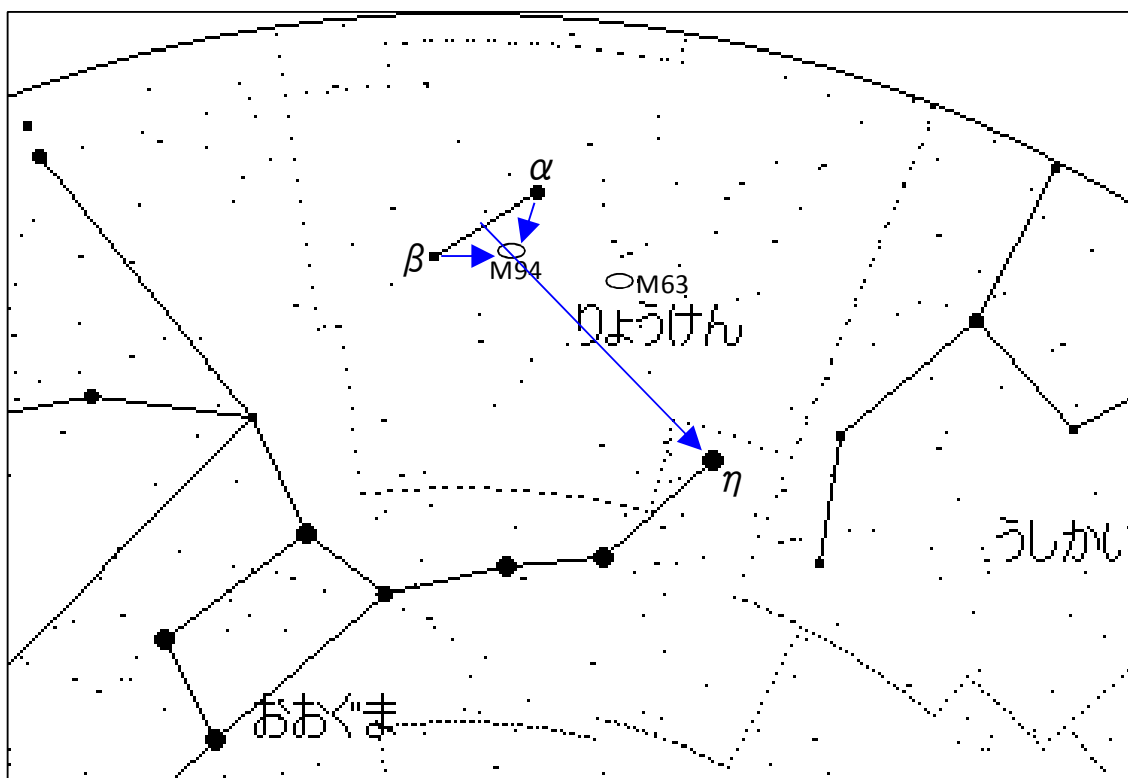
りょうけん座にある銀河です。

距離1400万光年、大きさ4.6×3.7万光年、見かけの大きさ
11×9' ☆13)で、我々の銀河系外の銀河です。

春の空は銀河の宝庫ですが、ほとんどの銀河は写真の様に見事な渦巻きには見えず、淡い星雲かほぼ恒星の様に見えます。しかし、次々と視野に入ってくる淡い天体や微かに滲んだ恒星状の天体でも、これは銀河かな、これも銀河かな、と見ていると宇宙の広がりを感じられて楽しいものです。

M94は分類では棒渦巻銀河ですが写真でも丸い円盤状にしか見えません。位置は非常に覚えやすく、りょうけん座 α （コル・カロリ）と β （カーラ）の中間よりおおぐま座 η （ベネトナーシュ）の方向で α と β を底辺とする二等辺三角形の頂点あたりにあります。

双眼鏡ではほとんど恒星状ですが、なんとなく滲んでいるかなという程度。口径5cm程度の望遠鏡でも滲んで見える程度ですが、口径10cm程度の望遠鏡ならなんとなく丸い円盤状に見えます。





M 9 4 口径 1 3 c m にて撮影

☆13) 【天文年鑑 2 0 2 5 年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社】

【まめ知識】

★木星の自転と経度★

木星は太陽系の惑星の中で最も速く自転していて、約9時間55分で1周します。ところが、木星はガス体で流動性があり、場所によって自転の速さが異なります。

赤道帯は9時間50分30秒、赤道帯以外は9時間55分00秒～9時間55分42秒の周期となっています。

これらの境界ははっきりしていて、経度にして $2^{\circ} \sim 3^{\circ}$ で周期が分かれます。また、自転周期は年代によって30秒程度変動して揺らいでいます。^{☆14)}

木星からは、断続的に電波は放射されていて、電波の観測による自転周期は9時間55分29.37秒^{☆02)}で、表面の観測による周期と異なります。

雲層下部の個体核の自転周期と考えられています。

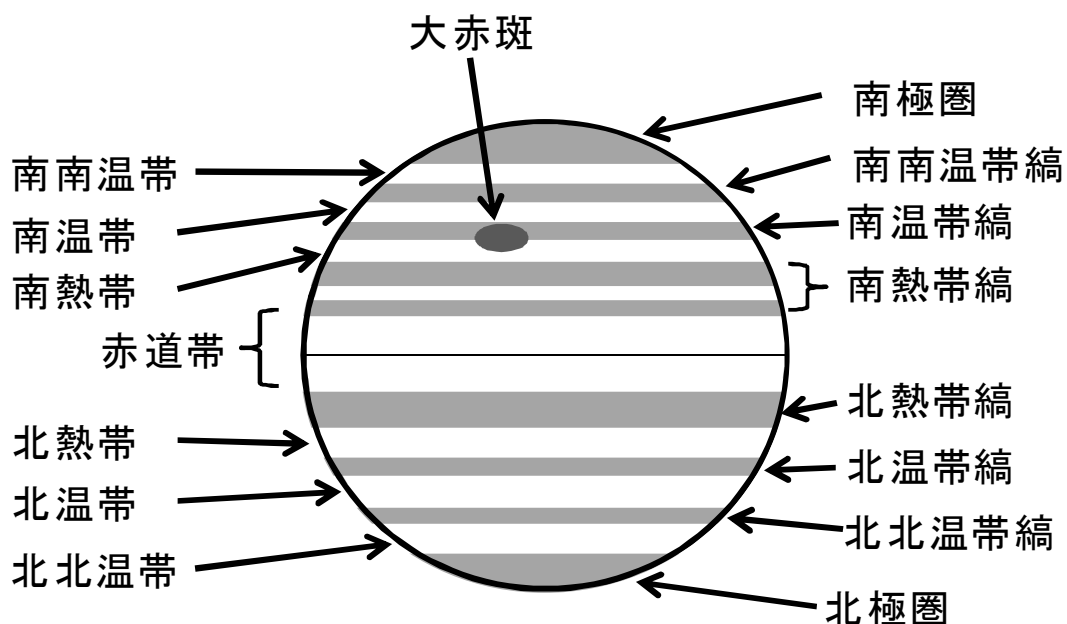
木星は、地方によって自転速度が異なるので、地球や火星の様に、一律に経度が決められません。

そこで、赤道帯（南赤道帯縞北端～北赤道帯縞の南端）を体系Ⅰとして、自転周期は9時間50分30.003秒。

それ以外の部分（南赤道帯縞の北端より南と北赤道帯縞の南端より北）を体系Ⅱとして、自転周期は9時間55分40.632秒。

体系Ⅰでは1897年7月14日グリニッジ平均正午における木星中央子午線の経度を 47.31° 、体系Ⅱでは 96.58° ^{☆14)}と決められています。

また、電波観測による周期を^{☆02)}体系Ⅲ（システムⅢ^{☆02)}）としています。



☆14) 【天体観測ハンドブック 鈴木敬信 誠文堂新光社】

☆02) 【天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社】

【付録】

★水星の日出30分前の高度 2010年（東京）

	時刻	高度°	方位角°	離角°
4月 1日	4時58分	0.9	269.3	-12
4月 2日	4時56分	1.5	270.3	-14
4月 3日	4時55分	2.0	271.2	-15
4月 4日	4時53分	2.4	272.0	-16
4月 5日	4時52分	2.9	272.8	-18
4月 6日	4時50分	3.2	273.4	-19
4月 7日	4時49分	3.6	274.0	-20
4月 8日	4時48分	4.0	274.6	-21
4月 9日	4時47分	4.3	275.1	-22
4月10日	4時45分	4.5	275.4	-23
4月11日	4時44分	4.7	275.7	-24
4月12日	4時42分	4.8	275.8	-24
4月13日	4時41分	5.0	275.9	-25
4月14日	4時40分	5.2	276.1	-25
4月15日	4時39分	5.3	276.1	-26
4月16日	4時37分	5.4	276.0	-26
4月17日	4時36分	5.4	275.9	-27
4月18日	4時34分	5.4	275.6	-27
4月19日	4時33分	5.4	275.4	-27
4月20日	4時32分	5.4	275.1	-27
4月21日	4時31分	5.4	274.8	-27
4月22日	4時29分	5.4	274.4	-27
4月23日	4時28分	5.3	274.0	-27
4月24日	4時26分	5.3	273.5	-27
4月25日	4時26分	5.2	273.0	-27
4月26日	4時25分	5.2	272.5	-27
4月27日	4時24分	5.2	272.0	-27
4月28日	4時23分	5.1	271.4	-27
4月29日	4時22分	5.0	270.7	-26
4月30日	4時20分	4.8	270.0	-26

★ωCen（オメガ・ケンタウリ）南中時刻 2025年（東京）

04月01日	0時31分
04月02日	0時27分
04月03日	0時24分
04月04日	0時20分
04月05日	0時16分
04月06日	0時12分
04月07日	0時08分
04月08日	0時04分
04月08日	23時60分
04月09日	23時56分
04月10日	23時52分
04月11日	23時48分
04月12日	23時44分
04月13日	23時40分
04月14日	23時36分
04月15日	23時32分
04月16日	23時29分
04月17日	23時25分
04月18日	23時21分
04月19日	23時17分
04月20日	23時13分
04月21日	23時09分
04月22日	23時05分
04月23日	23時01分
04月24日	22時57分
04月25日	22時53分
04月26日	22時49分
04月27日	22時45分
04月28日	22時41分
04月29日	22時37分
04月30日	22時33分

それではまた。

【参考文献】

- ☆01) アルマゲスト プトレマイオス 藪内清 訳 恒星社厚生閣
- ☆02) 天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社
- ☆03) 星の文化史事典 出雲晶子 白水社
- ☆04) 星座のはなし 野尻抱影 筑摩書房
- ☆05) 星の百科 草下英明 社会思想社
- ☆06) 星の文化史事典 出雲晶子 白水社
- ☆07) 星座の神話 原恵 恒星社厚生閣
- ☆08) 星座手帖 草下英明 社会思想社
- ☆09) 星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣
- ☆10) ほしぞらの探訪 山田卓 地人書館
- ☆11) 四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社
- ☆12) 星座 沼澤茂美・脇屋奈々代 ナツメ社
- ☆13) 天文年鑑 2025 年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社
- ☆14) 天体観測ハンドブック 鈴木敬信 誠文堂新光社